

国語科指導案

日 時:令和5年9月 20 日(金)

5校時 13:05～13:50

学校名:西東京市立柳沢小学校

対 象:みどり学級 A3組 4年生 1名

5年生 3名

6年生 2名

会 場:みどりルーム

授業者:T1 釜しほり

1 単元名 「手紙を書こう」『友だちの引っ越し』(宮野 聡子 PHP 出版)

2 単元の目標

○語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。

【知識及び技能】

◎場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。

【思考力、判断力、表現力等】

○言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。

【学びに向かう力、人間性等】

3 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。	① 読むことにおいて、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。	① 進んで、登場人物の気持ちや場面の様子を具体的に想像し、学習の見通しをもって感じたことや考えたことを伝え合おうとしている。

4 指導観

(1) 単元観

小学校学習指導要領 国語科における低学年の目標に、

(2)筋道を立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもつことができるようにする。

と書かれている。このことから低学年の国語の目標では、「自分の思いや考え」を、「もつ」ことができるように、重点的に育成していきたい。

本単元においては、場面から想像したことや主人公の気持ちを発表させるとともに、考えの根拠を本文から述べさせることで、叙述を基に内容を捉える力を身に付けさせていこうと考える。

また、特別支援学校学習指導要領総則編 国語 小学部〔国語〕の目標に、

(2)日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を身に付け、思考力や想像力を養う。

と書かれている。本単元を通して伝え合う力を伸ばし、思考力や想像力を育成することで、日常生活にも活かすことができるよう、断続的に指導を行っていく。また、自立活動の側面からも指導を行っていく。(別紙参照)

(2) 児童観

特別支援学級(知的固定)の4年生1名、5年生3名、6年生2名である。うち3名が自閉スペクトラム症を併せている。

学習面【話すこと・聞くこと】では、伝えたいことを文にして話すことが難しい児童が多い。また、他のことに気を取られてしまい、指示通りに行動できないこともある。【書くこと】では、1・2年生程度の漢字の学習を行っている。週に1度漢字テストを行っているが、日が経つと忘れてしまい、日常生活はひらがなで文章を書くことが多い。【読むこと】では、1・2年生の漢字や身近な漢字を読むことができる。書けない漢字でも、読むことができる漢字が多い。音読では、語のまとまりごとに正しく読むことが難しい児童が多い。繰り返し読むことで、円滑に正しく読むことができるようになってきている。生活面においては、下級生のお手本になるように挨拶の仕方や姿勢、返事、チャイム着席など頑張っている。長い時間座っていることが苦手で、徐々に姿勢が崩れてきてしまう児童もいる。ロールプレイやペアでの音読などの活動を取り入れながら、集中して授業に取り組める環境と整える。

これまで「読むこと」に関する学習で、『おじさんのかさ』という物語文の学習を行った。音読では、毎日の授業と家庭で繰り返し読む練習をすることで、正しく文字を読めるようになってきた。一学期に80人程の前で発表した経験が、自信となっている。気持ちの読み取りでは、主人公の行動を実際に再現してみることで、想像を広げながら考えることができた。ワークシートに取り組む際、ヒントの絵文字を見たり、友達の意見を聞いたりすることで、一人一人が自分の考えをもち、書くことができた。

(3) 教材観

昨年度、クラスメイトが転校することとなり、主人公と似たような体験をした。主人公の友達が引っ越しをしてしまう悲しい気持ちの葛藤を想像しやすいと考え、この単元を設定した。

本教材は、情景の移り変わりと主人公の気持ちの変化を、本文と挿絵から読み取ることができる教材である。本文にある会話や行動などの叙述を基にして、文中にない登場人物の気持やその行動に至るまでの背景を捉えることができる。また、本単元では、主人公の気持ちが場面の移り変わりの中で、揺れ動いて描かれている。複数の場面を結び付けながら、主人公の気持ちの変化を想像する力を養うことができると考える。

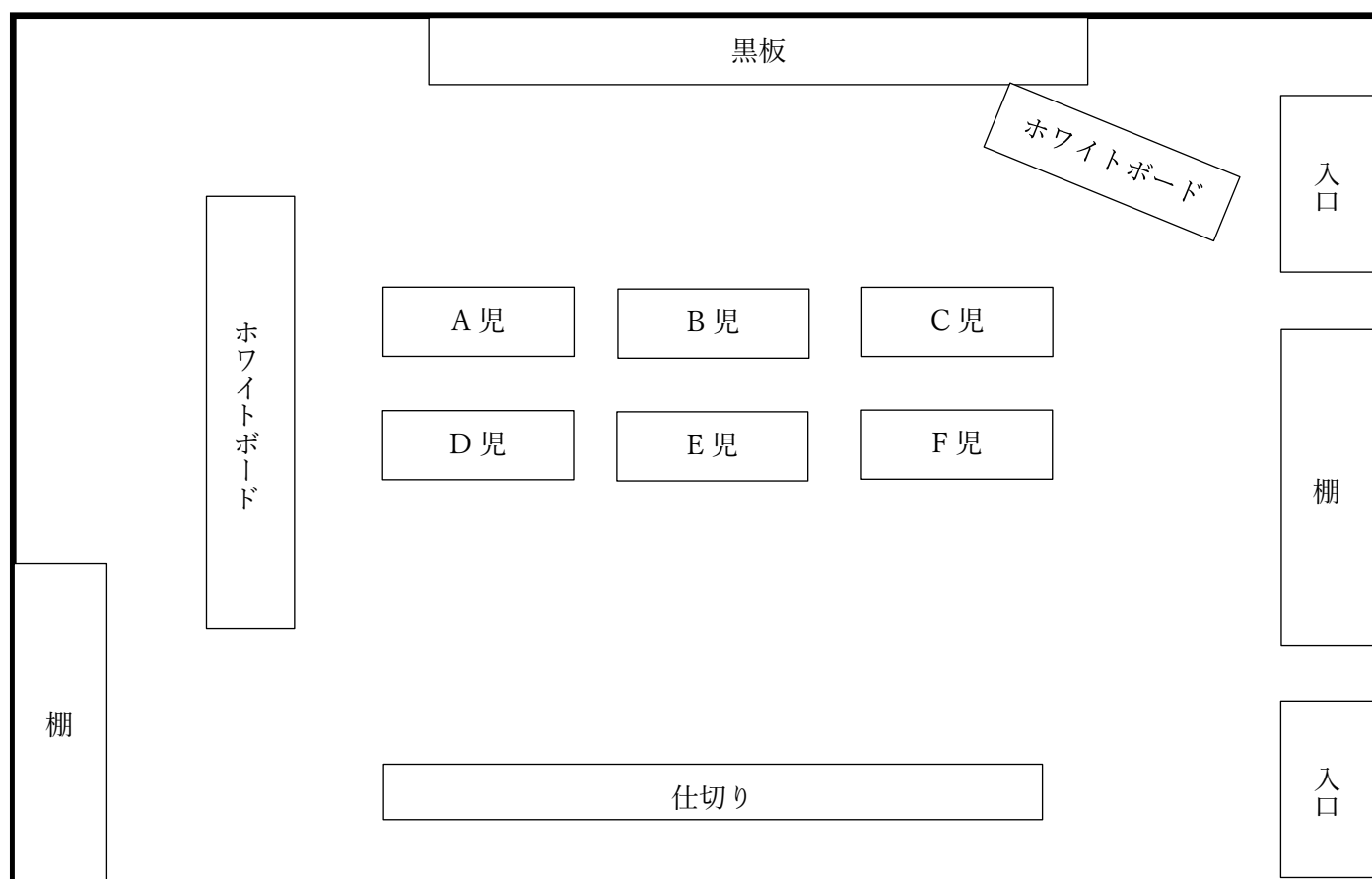
5 年間指導計画における位置づけ

前期	4月	詩『一本でもにんじん』、読解プリント
	5月	物語『おじさんのかさ』
	6月	柳沢小学校を紹介しよう
	7月	1学期の振り返り、絵日記を書こう
	9月	物語『友だちの引っ越し』(本単元)、絵日記を書こう
	10月	運動会の絵日記を書こう
後期	11月	説明文『言葉で遊ぼう』
	12月	2学期の振り返り、宿泊学習の絵日記を書こう
	1月	物語『お手がみ』
	2月	説明文『こまを楽しむ』
	3月	一年間の振り返り

6 単元の指導計画と評価計画（全9時間）

次	時	目標	○学習活動	評価規準 (評価方法)
第一次	1時	○物語を聞いて、話の概要が分かり、感想をもつことができる。 ☆段落分けを行う。 ☆「登場人物」「場面」の意味。	○学習活動に見通しをもつ。 ○第1場面について、本文を読んで、登場人物の年齢や場면을想像する。 ○自分の実体験を想起しながら、主人公の気持ちを読み取る。	イー① (発言の様子・ワークシートの内容)
	2時	○主人公の気持ちと場面の様子を、本文と挿絵から想像することができる。 ☆「」(会話文)の意味と読み方。	○第2場面について、本文を読んで、登場人物の年齢や場면을想像する。 ○自分の実体験を想起しながら、主人公の気持ちを読み取る。	アー① (音読の様子)
	3時	○主人公の気持ちと場面の様子を、本文と挿絵から想像することができる。 ☆主人公の気持ちから台詞を想像。	○第3場面について、本文を読んで、登場人物の行動や場面の様子を想像する。 ○自分の実体験を想起しながら、主人公の気持ちを読み取る。	イー① (発言の様子・ワークシートの内容)
	4時	○主人公の気持ちと場面の様子を、本文と挿絵から想像することができる。 ☆第2場面から第3場面までの内容や主人公の気持ち。	○第4場面について、本文を読んで、登場人物の行動や場面の様子を想像する。 ○自分の実体験を想起しながら、主人公の気持ちを読み取る。	イー① (発言の様子・ワークシートの内容)
	5時	○主人公の気持ちと場面の様子を、本文と挿絵から想像することができる。 ☆ゆうちゃんの気持ち。	○第5場面について、本文を読んで、登場人物の行動や場面の様子を想像する。 ○自分の実体験を想起しながら、主人公の気持ちを読み取る。	イー① (発言の様子・ワークシートの内容)
	本時			
	6時	○主人公の気持ちと場面の様子を、本文と挿絵から想像することができる。 ☆挿絵から主人公の台詞を想像。	○第6場面について、本文を読んで、登場人物の行動や場面の様子を想像する。 ○自分の実体験を想起しながら、主人公の気持ちを読み取る。	イー① (発言の様子・ワークシートの内容)
	7時	○主人公の気持ちと場面の様子を、本文と挿絵から想像することができる。 ☆第6場面の内容や主人公の気持ち。	○第7場面について、本文を読んで、登場人物の行動や場面の様子を想像する。 ○自分の実体験を想起しながら、主人公の気持ちを読み取る。	イー① (発言の様子・ワークシートの内容)
	8時	○主人公の気持ちと場面の様子を、本文と挿絵から想像することができる。 ☆「」(会話文)の登場人物。	○第8場面について、本文を読んで、登場人物の行動や場面の様子を想像する。 ○自分の実体験を想起しながら、登場人物の気持ちを想像する。	イー① (発言の様子・ワークシートの内容)
第二次	9時	○手紙を書き、本単元を振り返って、主人公の気持ちの変化を想像して考えることができたことを実感することができる。	○本単元のまとめを行い、主人公に手紙を書く。	ウー① (手紙の内容)

7. 配置図



8 指導に当たって

○児童への環境整備

- ・前時までの内容を教室の壁に提示する。
- ・黒板に近い壁をシンプルにする。

○ユニバーサルデザインを取り入れた授業の工夫。

- ・挿絵を示し、想像を膨らませやすいようにする。
- ・タイムタイマーを使用し、残り時間を示す。

○主体的な学びを活かすための工夫。

- ・発表する順番を決め、発言しやすい工夫を行う。
- ・ペアでの活動を取り入れる。

○ワークシートの工夫。

- ・児童に2種類のワークシートを選ばせる。
- ・UD 体、カラー印刷を用いて読みやすくする。

9 本時

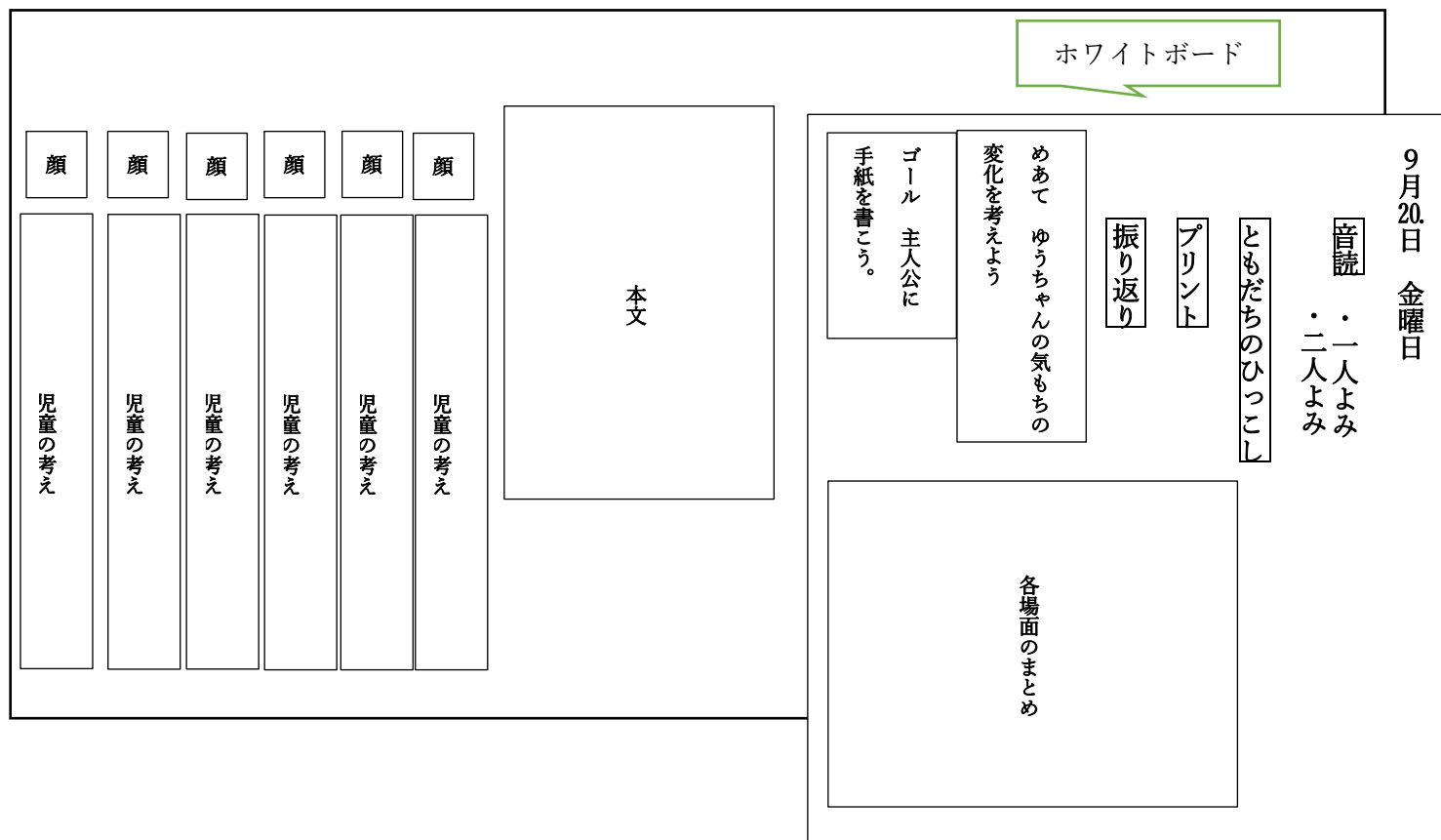
(1) 本時の目標 ともちゃんの悲しむ気持ちに気づき、会いたいと思う、主人公の気持ちの変化を読み取ることができる。

(2) 本時の展開

時間	学習活動 ○主な発問 ・児童の反応	・指導上の留意点	■評価規準(評価方法)
導入 10分	1 本時の流れを確認する。 2 前時の復習をする。 第1段落から第4段落までの内容を簡単に振り返る。 3 本時のめあてを確認する。 4 音読をする。 『友だちの引っ越し』第5段落 めあて：ゆうちゃんの気持ちの変化を考えよう	・毎時同じ流れで行うことで、見通しをもって授業に参加できるようにする。 ・前回までの板書を見ながら、これまでの主人公の気持ちの変化を振り返り、本時のめあてを明確に示す。 ・聞こえる声で、語のまとまりに気を付けて音読することを確認する。	
展開 25分	5 本文を詳しく読む。 ・ともちゃんが引っ越してしまう前日の夜の主人公の気持ちを話し合う。 ・ともちゃんが泣いている理由を話し合う。 ・泣いているともちゃんを見た時の主人公の気持ちを考え、台詞を考える。 6 ワークシートに取り組む。 ○泣いているともちゃんを見た時のゆうちゃんの言葉を考えよう。 ・考えた台詞を発表する。 ・ゆうちゃんの気持ちの変化を考える。	・登場人物の行動の言葉や台詞に注目させることで、登場人物の気持ちの想像を膨らませる。 ・場合によっては、挿絵を見させることで登場人物の気持ちを考える手がかりとする。 ・ともちゃんの気持ちを考えることが難しい場合は、なぜ泣いているのか、何が悲しいのかを一緒に考える。 ・一人で考える時間を設定し、自分の考えをもてるようにする。 ・主人公の気持ちを考えることが難しい場合は、自分の経験と照らし合わせて考えるよう促す。 ・どの文を見て、自分の考えをもったのか理由とともに、台詞を発表することを確認する。 ・気持ちレベル表と、ゆうちゃん表情カードで分かりやすく示す。 ・友達の見聞を聞いて、考えたことをワークシートに記入する。	【イ思考・判断・表現】ともちゃんの悲しむ気持ちに気づき、会いたいと思う、主人公の気持ちの変化を読み取っている(ワークシート)
まとめ 5分	7 本時のめあてを振り返る。 8 次回の学習に見通しをもつ。	・次回は、第6段落について詳しく読むことを確認する。	

※個別の目標は別紙参照。

(3) 板書計画



(4) 授業観察の視点

- ・本時の目標を達成するための学習活動となっていたか。
- ・分かりやすい効果的な発問、整理された板書、計画的な資料工夫がされていたか。
- ・児童一人一人の目標設定は適切であったか。
- ・登場人物の気持ちの想像を膨らませる発問であったか。